

— 学 会 録 事 —

1. 持回り評議員会報告

5回にわたる学会誌改革実務委員会の検討結果を受けて、1993年11月27日付で持回り評議委員会を行った。その主要な点は次のとおりである。

本学会の学会誌改革については、去る3月の評議員会ならびに総会において改革の方向の大筋が承認されたが、学会誌改革実務委員会で、英文誌出版候補の Blackwell Scientific Publications との数回の予備交渉をふまえて鋭意検討を進めた結果、ほぼ次のような結論に達した。

(1) 英文誌の出版社を Blackwell Scientific Publications とする。

(2) 英文誌のサイズは A4 判とし、さしあたって1号あたり64頁で年4回発行する。この印刷発行と郵送の経費は年間およそ425万円である。

(3) 英文誌のタイトルは Phycological Research とし、1995年から出版する。

(4) 和文誌は現在の「藻類」の体裁をほぼ踏襲し、年3回(3号)出版する。1号あたりの頁数は64頁としたいが、現在の財政状況からすると48頁に縮小せざるを得ない可能性が強い。

(5) 和文誌出版の経費は120~150万円必要と見積られるが、これは現状ではかなり厳しく、庶務費の節減と予備費(前年度繰越金)で当面对処しながら収入増の努力を続けることとする。

1995年からこのように移行するとすれば、出版社との正式の契約を早急に検討する必要があり、会則改正その他の総会承認事項があるので正式には総会後でないといけないが、1994年3月の評議員会ならびに総会を待っていると最初の出版が大変遅れてしまう危険がある。そこで実務委員会としては持回り評議員会をお願いし、基本線を承認してもらい、英文誌ならびに和文誌の編集委員会を非公式ではあるが可及的すみやかにスタートさせ、1995年移行のための編集実務を進め、最終的には1994年3月の総会で正式に承認してもらいたい。実務委員会では、英文誌編集委員長として川井浩史氏(神戸大学)、和文誌編集委員長とし

て井上勲氏(筑波大学)を推薦するが、これはあくまでも移行期の特別措置で、将来は「現会長、前会長、次期会長、現編集委員長、前編集委員長、次期編集委員長、現評議員からなる役員会(仮称)を設置し、そこで両編集委員長を決め、任期は3年とする」ことを提案する。

上記について、次のような項目で1993年12月13日までに回答を求めた結果、下記のようにいずれも承認された。

(1) 英文誌出版社を Blackwell Sci. Publ. とする。(賛否)

(2) 英文誌のサイズは A4 判とし、1号あたり64頁で年4回発行する。(賛否)

(3) 英文誌のタイトルは Phycological Research とし、1995年から出版する。(賛否)

(4) 和文誌は現在の「藻類」の体裁をほぼ踏襲し、年3回(3号)出版する。(賛否)

(5) 英文誌編集委員長を川井浩史氏、和文誌編集委員長を井上勲氏をお願いする。(賛否)

(6) その他の意見
(結果)

評議員16名のうち15名から期限までに返信があり、集計結果は次のとおり。

(1) 賛14 否0 保留1

(2) 賛14 否0 保留1

(3) 賛13 否1 保留1

(4) 賛12 否0 保留3

(5) 賛13 否0 保留2

なお、記入された意見をここに集録するのは省略するが、大変貴重な意見があるので、引続き慎重に検討したいというのが実務委員会委員長でもある会長の意向である。

2. 日本学術会議第16期会員候補者の推薦

標記について評議員の投票の結果、会員候補者には千原光雄氏、推薦人には石川依久子氏、推薦人予備者には能登谷正浩氏が選ばれた。

— 会 員 移 動 —
新 入 会 員

住所変更

退会者

正誤表 Errata
(第41巻 1-4号 Vol. 41 No. 1-4)

	誤 incorrect	正 correct
No. 3 和文目次 L. 15	ヒナノリ目	チノリモ目
p. 205 Right, L. 42.	Morphological analysis	Morphological study
p. 229 Right, L. 2, 46, 51	Moestrup, ϕ	Moestrup, \emptyset
p. 241 和文要旨表題	ヒナノリ目	チノリモ目
p. 351 Author name	Wahiro Kida	Washiro Kida
p. 357 Left, L. 7	右田清二	右田清治

